

2018年12月

シングルマザーの貧困問題について ～シングルマザーの現状を中心に～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B5R11028 奥田荘士

【卒業論文概要】

世の中には裕福な人もいれば、1日1日を生きられるのか、明日が見えないような不安を抱えながら毎日を過ごしている人がいるのが現実である。その中でも主に貧困に陥っているのがシングルマザーである。では、なぜシングルマザーが貧困に陥りやすいのか。それは、シングルマザーはシングルファザーと比較すると非正規社員の割合が非常に高いことなどから、所得が低く、労働環境も貧困に陥りやすい理由の一つと言える。その他にも離婚後の養育費が支払われない等理由は様々である。正規社員と非正規社員では当然のことながら所得は減ってしまい、養育費も支払われないとなれば生活は苦しくなる。私はこの問題にどのようにすればシングルマザーは貧困にならないのかを考え、解決策を提示した。

本論文の目的は、シングルマザーの現状と貧困について知り、貧困問題を解決するためにどのような活動をしていくべきなのか。また、どのようにすれば貧困に陥らないのか明らかにすることである。

私はシングルマザーが貧困に陥りやすい理由として離婚後の養育費の未払い、女性の労働問題の2点だと考えた。まずは離婚後の養育費問題であるが、厚生労働省の平成28年の調査によれば、受給率は24.3%である。10人中2、3人しか養育費をもらっていないということである。養育費を現在も受給しているのが24.3%、過去に受けたことがあるのが15.5%、受けたことがないのが56.0%で、不詳は4.2%であった。この結果から初めは全体の約4割が支払っていたのに、その中の約4割が支払わなくなってしまうことが分かった。シングルマザーが貧困へと陥っていく理由に必ずこの問題が関係していると考え解決策を提示した。

次に女性の労働問題について。シングルマザーとなり、生活のために仕事をしなくてはならない。しかし、仕事以上に大切になってくるのが子育てだと思う。子どもの年齢が低ければ低いほど手間がかかってしまい思うように働けないのではないだろうか。シングルマザーになった際、両親など頼れる人がいる場合とそうでない場合によっても事情は変わってくるが、再就職となると厳しいのが現実である。最近では待機児童問題、そしてまだまだ足りていない女性の労働環境の整備。特に労働環境については、2016年4月から施行された「女性活躍推進法」で変わってきているものの、現状満足のいく環境ではない。シングルマザーが求める条件であれば、これも正規社員としては厳しいというのが現実である。

これらのことを踏まえ、現在の母子家庭は、女性労働条件や雇用条件の整備とともに、離婚後の養育費未払い問題を改善することを、課題と考え、シングルマザーが貧困に陥らないためには、簡単に離婚をしないような相手と結婚することが解決方策として提示した。